

【 成人看護学 】

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	成人看護学概論		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
講師名	看護師 ★		時間数	30
			講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 成人期における対象の特徴を理解できる 2. 成人期における対象への看護の機能・役割について理解できる 3. 成人期における保健活動の意義、健康の保持増進を図る援助を理解できる 4. 健康障害時の健康レベルに応じた看護方法を理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	I. 成人期における看護の理解 1. 成人各期における特徴	1) 青年期の成長発達と発達課題の特徴 2) 壮年期・中年期の成長発達と発達課題の特徴 3) 向老期の成長発達と発達課題の特徴		*アクティブラーニング 講義
2回	2. 成人の生活と健康	1) 生活の視点から見た成人の健康 (1)成人を取り巻く環境 (2)成人のライフスタイルの特徴 2) 成人期の健康観 (1)生と死の動向、受療状況		講義
3回		3) 健康教育 (1)セルフマネジメント、アンドラゴジー、ペダゴジー、エンパワーメントエデュケーション		講義
4回	3.健康を阻害する生活行動要因	1) 健康な生活の保持・増進への看護 (1)生活習慣病予防 (2)ストレス (3)職業に関連する健康障害		講義・演習
5回		2) 健康診断の重要性と健康生活保持のための指導 3)健康増進・疾病予防に伴う施策や取り組み		講義・演習
6回	4. 看護の対象、看護の視点	1) 主体的な健康行動の促進 2) 健康生活を支援する環境づくり 3) 看護の場と主な活動内容 4) 主な活動内容 5) 症状マネジメントに向けた支援		講義
7回	5. 成人の特性や能力に応じた看護の目的	1) 自立した存在を尊重したアプローチ 2) 独自の考えや行動パターンを尊重したアプローチ 3) 家庭・社会で役割を担う存在を尊重したアプローチ		講義

8回	II.健康レベル(経過別)に 応じた看護 1.急性期看護とは	1)健康レベル(経過別)とは 2)急性期の概念および看護の概要 3)生命の危機状態 4)急激な健康破綻をきたした人の看護 5)健康状態が急速に変化する対象の身体的・心理的・社会的特徴(危機理論) 6)早期回復に向けての援助(酸素化促進、消化管機能維持、体液の改善) 7)救急看護	講義
9回	2.回復期看護とは	1)回復期の概念および看護の概要 2)リハビリテーションの概念および看護の概要・国際生活機能分類(ICF) 3)社会復帰に向けた看護の概要	講義
10回	3.慢性期看護とは	1)慢性期の概念および看護の概要 (1)慢性期の健康状態とは (2)慢性的経過をたどる対象の精神的・社会的特徴 (3)セルフコントロールへの援助 (4)慢性期の寛解と増悪	講義
11回	4.終末期看護とは	1)終末期の概念および看護の概要 (1)終末期にある対象の身体的・精神的・社会的影響と苦痛 (2)苦痛のアセスメント(全人的苦痛) (3)疼痛コントロール	講義
12回		(4)QOLの保証(ACP、リビングウィル) (5)グリーフケア・悲嘆へのケア (6)デスカンファレンス (7)看取りの場(緩和ケア病棟、在宅) (8)臨終時の看護(死後の処置含む)	講義 演習
13回	5.治療と看護	1)手術療法時の看護 (1)術前の看護 ①手術療法・身体侵襲の意義②術前患者のアセスメント ③術前看護の役割 (2)術中の看護 ①麻酔法の種類と合併症 ②術中患者のアセスメント ③術中看護の役割④外科的ガウンテクニック⑤外科的手洗い (3)術後の看護 ①術後経過と生体反応 ②術後患者のアセスメント ③術後合併症の早期発見と予防 2)集中治療時の看護	講義 演習

14 回		2) 薬物療法時の看護 (1) 薬物療法を受ける患者の援助 (2) 抗がん剤投与時の観察と援助 (3) 有害事象に対する症状のマネジメント 3) 放射線療法時の看護 (1) 放射線療法を受ける患者の援助 (2) 放射線防護 ① 被爆防護の3原則 (3) 医療者の健康管理 4) 食事療法時の看護 (1) 食事療法を受ける患者の援助 ① 栄養・カロリー低下の予防 ② 自己管理への援助	講義
15 回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験 演習課題 演習参加状況		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 基礎看護学④ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)		
参考文献			

【成人看護学概論】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、成人看護の理解を深める
--------	-------	---------	-----------------------

授業科目	運動機能に障害のある成人の看護 (運動器)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 運動機能障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる 2. 認知機能・コミュニケーション障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. 運動機能障害をもつ患者の観察とアセスメント 2. 運動機能障害の症状に対する看護	1) 観察とアセスメント (1) 身体機能・ADL 評価 (2) 四肢の形状、姿勢・運動、歩行の正常性 (3) 障害受容の程度と原因 (4) 心身・日常生活への影響 (道具の活用) 2) 症状に対する看護 (1) 関節・脊柱の疼痛の緩和 (2) 関節可動域制限・麻痺・循環障害の看護	講義	
2回	3. 検査を受ける患者の看護	3) 検査を受ける患者の看護 (1) 画像検査を受ける患者の看護 ・ X 線・MRI・脊髄造影検査(ミエログラフィ) ・ 椎間板造影検査・関節造影検査 (2) 電気生理学的検査を受ける患者の看護 (3) 関節鏡検査を受ける患者の看護 (4) 筋生検を受ける患者の看護 (5) 関節可動域検査、徒手筋力テスト	講義	
3回	4. 治療を受ける患者の看護	4) 保存療法を受ける患者の看護 (1) 効果的な固定法・牽引法と生活の援助 (2) ギプス固定・各種牽引療法時の合併症予防 (3) 副子固定を受ける対象の看護	講義	
4回		5) 手術を受ける患者の看護 (1) 骨折の観血的整復固定術の看護 (2) 人工関節術後の看護 (3) 四肢切断・再接着術の看護 (4) 脊柱手術後の生活の援助	講義	
5回	5. 疾患をもつ患者の看護	6) 疾患をもつ患者の看護 (1) 腰痛患者の看護 (2) 脊椎損傷患者の看護 (3) 骨腫瘍患者の看護 (4) 関節リウマチ患者の看護	講義	
6回	6. 機構が担う特徴ある運動器に障害のある患者の看護	1) 重症心身障害者の看護 2) 筋ジストロフィー症患者の看護	講義	
7回	7. 意識障害のある患者の看護	1) 意識障害のある患者の看護 (1) 意識障害とは	講義	

		(2)意識障害の分類・評価・原因 (3)生命維持のために必要な処置や治療 (4)合併症や身体の危険の予防 (5)日常生活の援助	
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 運動器 成人看護学⑩ (医学書院) 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ (医学書院)		
参考文献			

授業科目	運動機能に障害のある成人の看護 (脳神経)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	15
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 認知機能・コミュニケーション障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる 2. 感覚機能障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1.脳神経障害をもつ患者の観察とアセスメント	1)観察とアセスメント (1)意識障害の原因・評価 (2)言語障害の種類・言語以外のコミュニケーション能力 (3)言語・行動・神経学的検査の正常性 (4)意識障害の程度と原因、日常生活の援助 (5)注意・記憶障害、空間認知障害の原因と程度、心身・日常生活への影響		講義
2回	2.脳神経障害の症状と看護	2)症状に対する看護 (1)遷延性意識障害患者の看護 (2)注意・記憶障害に対応した生活指導 (3)空間失認の生活訓練・環境調整 (4)失語・構音障害の生活訓練と援助 (5)片麻痺患者の日常生活の訓練と介助方法		講義
3回	3. 検査を受ける患者の看護 4.治療を受ける患者の看護	3) 検査を受ける患者の看護 (1)脳血管造影検査時の援助 (2)脳波検査時の援助 (3)髄液検査時の援助 4) 治療を受ける患者の看護(保存的療法・手術療法) (1)ドーパミン補充療法の服薬指導 (2)脳の血腫・腫瘍・動脈瘤摘出時の看護		講義
4回	5.脳神経系の疾患と看護	5)疾患をもつ患者の看護 (1)クモ膜下出血患者の看護 (2)脳腫瘍患者の看護 (3)頭部外傷患者の看護 (4)重症筋無力症患者の看護 (5)筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の看護		講義
5回	6.感覚機能障害をもつ患者の観察とアセスメント	1)観察とアセスメント (1)各感覚機能障害の原因と程度 (2)検査所見の正常性 (3)心身・日常生活への影響 2)症状に対する看護 (1)視力・視野障害の看護 (2)聴覚障害の看護 (3)平衡感覚障害の事故防止 (4)神経障害の生活指導 (5)味覚・嗅覚障害の看護 (6)点眼薬与薬時の事故防止		講義

6回	7.感覚機能障害の検査を受ける患者の看護 8.手術療法を受ける患者の看護	3) 検査を受ける患者の看護 (1)視力検査・眼底検査・眼圧検査・視野検査を受ける患者の看護 (2)聴力および平衡機能検査を受ける患者の看護 (3)咽頭・喉頭の内視鏡検査を受ける患者の看護 (4)味覚検査を受ける患者の看護	講義
7回		4) 手術療法を受ける患者の看護 (1)光凝固・硝子体手術の看護 (2)角膜移植術の看護 (3)鼓室形成術の看護 (4)副鼻腔手術の看護	講義
8回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ (医学書院)		
参考文献			

【運動機能に障害のある成人の看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、成人看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	生命維持機能に障害のある成人の看護 (血液・造血)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	8
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 血液・造血器系に障害をもつ成人及びその家族への看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 血液・造血機能障害をもつ患者の観察とアセスメント	1) 観察とアセスメント (1) 貧血症状の有無と程度・赤血球系の疾患の特徴 誘因・増悪因子 (2) 出血傾向に伴う問題・誘因・増悪因子 (3) 白血球減少の有無と程度 (4) 心身・日常生活への影響		講義
2回	2. 血液・造血機能障害の症状と看護 3. 検査を受ける患者の看護	2) 症状に対する看護 (1) スタンダードプリコーション・感染経路に対応した感染予防・職業上の感染予防 (2) 出血の予防・出血時の処置 3) 検査を受ける患者の看護 (1) 骨髄穿刺時の援助		
3回 4回	4. 疾患を持つ患者の看護	4) 白血病・悪性リンパ腫・HIV (1) 化学療法を受ける患者の看護 (2) 輸血療法を受ける患者の看護 (3) 骨髄移植・造血幹細胞移植時の看護 (4) 移植時の倫理的配慮		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 血液・造血器 成人看護学④ (医学書院)			
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ (医学書院)			

授業科目	生命維持機能に障害のある成人の看護 (呼吸器)	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	10
		テスト時間	試験別
学習目標	1. 呼吸器系に障害をもつ成人及びその家族への看護が理解できる		
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態
1回	1.呼吸機能障害をもつ患者の観察とアセスメント	1)観察とアセスメント (1) 咳嗽・喀痰・血痰・喀血・胸痛・呼吸困難 (2) 呼吸音の聴取法、胸郭運動の視診法 (3) 胸水観察法 (4) 呼吸器症状・喀痰・肺機能検査、動脈血ガス分析値の正常性 (5) 換気障害・ガス交換障害の程度・分類・原因 (6) 心身・日常生活への影響	講義
2回	2.呼吸機能障害の症状と看護	2)症状に対する看護 (1) 呼吸困難時の安楽な体位 (2) 喀痰困難時の肺理学療法 (3) 喘息発作時の対応と予防指導 (4) 慢性呼吸不全の呼吸療法と生活指導	
3回	3.検査を受ける患者の看護	3)検査を受ける患者の看護 (1) 気管支鏡・造影検査時の援助 (2) 胸腔穿刺検査・肺生検時の看護	講義
4回	4.治療・処置を受ける患者の看護	4)治療・処置を受ける患者の看護 (1) 肺切除術(患者の特徴、手術前・手術後(胸腔内低圧持続吸引)・回復期) (2) 胸腔鏡下手術の合併症予防 (3) 抗アレルギー薬・気管支拡張薬・副腎皮質ステロイド薬の服薬指導 (4) 吸入療法・酸素療法・胸腔ドレナージの管理	講義
5回	5.疾患を持つ患者の看護	5)疾患を持つ患者の看護 (1) 肺癌患者の病期に応じた援助(化学療法、放射線療法) (2) 肺炎の病期に応じた援助 (3) 慢性閉塞性肺疾患の病期に応じた援助(急性増悪時の看護、安定期の看護、看取りに向けての看護) (4) 気管支喘息の病期に応じた援助(急性喘息発作時の看護、慢性安定期の看護) (5) 人工呼吸器を装着する患者の看護 (6) 結核患者の看護(急性期、慢性期)	講義
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学②(医学書院)		
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④(医学書院)		

授業科目	生命維持機能に障害のある成人の看護 (循環器)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	11
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 循環器系に障害をもつ成人及びその家族への看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 循環機能障害をもつ患者の観察とアセスメント 2. 循環機能障害の症状と看護	1) 観察とアセスメント (1) 胸痛・動悸・浮腫・呼吸困難・チアノーゼ・ショック (2) 浮腫・うっ血の観察法 (3) 身体所見・自律神経反射・心電図所見の正常性 (4) 障害の原因と程度 (5) 心身・日常生活への影響 2) 症状に対する看護 (1) 血圧コントロールの生活指導		講義
2回	3. 検査・治療処置を受ける患者の看護	3) 検査を受ける患者の看護 (1) 心臓カテーテル検査・心血管造影検査 (2) 心電図検査時の援助 (3) 動脈血ガス分析時の援助 4) 治療・処置を受ける患者の看護 (1) ペースメーカー装着時の生活指導 (2) PCI・経皮的冠状動脈形成術の看護 (3) 降圧・利尿剤・抗不整脈剤・抗強心薬の服薬指導 (4) 抗凝固薬・血栓溶解薬・抗血小板薬の服薬指導 (5) 大動脈バルーンパンピング(実施中の看護) (6) 植込み型除細動器(挿入後の看護)		講義
3回 4回 5回	4. 疾患を持つ患者の看護 5. 手術を受ける患者の看護	5) 疾患を持つ患者の看護 (1) 心不全患者の病期に応じた援助 (2) 虚血性心疾患患者の病期に応じた援助 (3) 不整脈のある患者への援助 (4) 下肢動脈閉塞症の患者への援助 6) 開心術を受ける患者の看護 (1) 経皮的冠動脈形成術(手術前・手術後の看護) (2) 冠動脈バイパス術(手術前・手術後の看護) (3) 弁置換術(手術前・手術後・回復期の看護) (4) 血栓溶解療法・血栓除去術(手術後の看護)		講義

6回	まとめ/終講試験
評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成人看護学③ (医学書院)
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ (医学書院)

【生命維持機能に障害のある成人の看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、成人看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	消化機能、代謝機能に障害のある成人の看護		対象学年・時期	2 年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	16
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 栄養摂取・消化・吸収・排泄機能に障害を持つ成人とその家族への看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1 回	1. 消化器系に障害をもつ患者の観察とアセスメント	1) 観察とアセスメント (1) 嚥下困難、おくび・胸やけ、吐き気・嘔吐 腹痛、吐血・下血、下痢、便秘、腹部膨満 食欲不振、黄疸、意識障害（肝性脳症） (2) 視診、聴診、打診、触診、直腸指診 (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響		講義
2 回	2. 消化器症状に対する看護	2) 症状に対する看護 (1) 嚥下困難 (2) おくび・胸やけ (3) 吐き気・嘔吐 (4) 腹痛 (5) 吐血・下血 (6) 下痢 (7) 便秘 (8) 腹部膨満 (9) 食欲不振 (10) 黄疸 (11) 意識障害（肝性脳症）		講義
3 回	3. 検査を受ける患者の看護	3) 検査を受ける患者の看護 (1) 腹部超音波検査 (2) CT・MRI 検査 (3) 肝生検 (4) 消化器内視鏡検査 (5) 消化管造影検査		講義
4 回	4. 治療・処置を受ける患者の看護	4) 治療・処置を受ける患者の看護 (1) 薬物療法 (2) 化学療法 (3) 栄養療法・食事療法 (4) 放射線療法		講義
5 回 6 回	5. 手術を受ける患者の看護	5) 消化器の手術を受ける患者の看護 (1) 食道疾患の手術 (2) 胃・十二指腸疾患の手術 (3) 腸・腹膜疾患の手術 (4) 肝臓・胆嚢疾患の手術 (5) 膵臓疾患の手術		講義
7 回	6. 合併症とその予防	6) 合併症予防（呼吸器合併症、血栓塞栓症、術後イレウス、せん妄等） (1) 呼吸器合併症 (2) 循環器系合併症 (3) 消化器系合併症 (4) 泌尿器系合併症 (5) 術後せん妄		講義
8 回	7. 手術後の環境の準備	7) 消化器疾患患者の術後ベッドの作成 (手順・根拠・留意点) 8) 術後の環境調整		演習 (実習室)
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤（医学書院）			
参考文献	講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第3版 医歯薬出版株式会社			

授業科目	消化機能、代謝機能に障害のある成人の看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	13
			テスト時間	1(45)
学習目標	1. 代謝機能に障害を持つ成人とその家族への看護が理解できる 2. 内分泌機能に障害を持つ成人とその家族への看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1.代謝性障害患者の観察とアセスメント	1) 観察とアセスメント (1) 代謝機能障害の原因と程度 (2) 体重変化・身長 of 異常、容貌の変化 神経・筋症状、循環器症状、消化器症状、皮膚の変化 (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響		講義
2回 3回	2.代謝機能障害患者の看護	2) 代謝障害患者の看護 (1) 糖尿病患者の看護 (2) 脂質異常症患者の看護 (3) 肥満患者の看護 (4) るい痩患者の看護 (5) 尿酸代謝異常患者の看護		講義
4回		3) 生活指導を中心とした看護 (1) 健康学習支援、健康教育		講義
5回 6回	3.内分泌障害患者の看護	1) 観察とアセスメント (1) 内分泌機能障害の原因 (2) 体重変化・身長 of 異常、容貌の変化 神経・筋症状、循環器症状、消化器症状、皮膚の変化、無月経 (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響 2) 内分泌機能障害患者の看護 (1) 内分泌疾患の検査を受ける患者の看護 (2) 下垂体疾患患者の看護 (3) 甲状腺疾患患者の看護 (4) 副甲状腺疾患患者の看護 (5) 副腎疾患患者の看護		講義
7回	まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ (医学書院)			
参考文献				

【消化機能、代謝機能に障害のある成人の看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、成人看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	排泄機能・生殖機能・免疫機能障害のある 成人の看護（腎・泌尿器）	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	11
		テスト時間	1(45)
学習目標	1. 腎・泌尿器系に障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる		
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態
1回	1. 腎・泌尿器系に障害をもつ患者の観察とアセスメント	1) 観察とアセスメント (1) 腎・泌尿器機能障害の原因と程度 (2) 尿の異常、排尿に関連した症状、浮腫、脱水、循環器系の異常、血液の異常、尿毒素、疼痛、腫脹・腫瘤、性機能障害 (3) 視診・触診 (4) 検査所見の正常性 (5) 心身・日常生活への影響	講義
2回	2. 症状に対する看護	2) 症状に対する患者の看護 (1) 浮腫のある患者の看護 (2) 高血圧のある患者の看護 (3) 下部尿路症状のある患者の看護 (4) 尿の性状異常のある患者の看護 (5) 疼痛のある患者の看護	講義
3回	3. 検査を受ける患者の看護	3) 検査を受ける患者の看護 (1) 尿検査 (2) 残尿測定検査 (3) 膀胱鏡検査 (4) 画像検査 (5) 生検 (6) 尿流動態検査 (7) 腎機能検査	講義
4回	4. 治療・処置を受ける患者の看護 5. 血液透析を受ける患者の看護	4) 治療・処置を受ける患者の看護 (1) 薬物療法を受ける患者の看護 (2) 食事・運動療法を受ける患者の看護 (3) 腎・泌尿器疾患を持つ患者の看護 (4) 導尿・尿カテーテル留置する患者の看護 (5) 膀胱の手術を受ける患者の看護 (6) 前立腺の手術を受ける患者の看護 (7) 腎臓の手術を受ける患者の看護 (8) 精巣の手術を受ける患者の看護 (9) 尿路結石の手術を受ける患者の看護 (10) 腎移植を受ける患者の看護 5) 血液透析を受ける患者の看護 (1) 治療選択期の患者の看護 (2) 血液透析患者の看護 (3) 腹膜透析患者の看護	講義
5回	6. 男性生殖器に障害をもつ患者の看護	6) 男性生殖器機能障害 (1) 不妊の原因と程度 (2) 性感染症(STD) (3) 男性生殖器疾患	講義

6回	まとめ/終講試験
評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧ (医学書院)
参考文献	

授業科目	排泄機能・生殖機能・免疫機能障害のある 成人の看護 (女性生殖器)	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	8
		テスト時間	試験別
学習目標	1. 女性生殖器系に障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる		
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態
1回	1.女性生殖器系に障害をもつ患者の観察とアセスメント 2.診療の介助	1) 観察とアセスメント (1) 女性生殖器機能障害の原因と程度 (2) ショック、出血、帯下、疼痛、発熱、下腹部膨満・腫瘤感、外陰部搔痒感、排尿障害、自律神経症状、不定愁訴、リンパ浮腫 (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響 2) 診療の介助 (1) 外診時の看護、内診時の看護 (2) 理学的検査 (3) 病理検査 (4) 細菌・ウイルス・原虫検査 (5) 画像検査 (6) 腫瘍マーカー検査 (7) 妊娠検査 (8) 内視鏡検査 (9) 染色体検査・遺伝子検査 (10) 検査・処置時の看護	講義
2回	3.症状に対する看護	3) 症状に対する看護 (1) ショック状態患者の看護 (2) 性器出血患者の看護 (3) 帯下・搔痒感のある患者の看護 (4) 疼痛のある患者の看護 (5) リンパ浮腫のある患者の看護 (6) 下腹部膨満・腫瘤感のある患者の看護 (7) 自律神経失調症状・不定愁訴のある患者の看護	講義
3回	4.治療・処置を受ける患者の看護	4) 治療・処置を受ける患者の看護 (1) 膣洗浄 (2) 膣タンポン (3) 導尿 (4) 腹腔穿刺 (5) ダグラス窩穿刺 (6) レーザー治療 (7) 薬物療法 (8) 放射線療法 (9) 体外受精	講義
4回	5.手術を受ける患者の看護	5) 手術を受ける患者の看護 (1) 外性器の手術を受ける患者の看護 (2) 内性器の手術を受ける患者の看護 (3) 乳房の手術を受ける患者の看護	講義
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ (医学書院)		
参考文献			

授業科目	排泄機能・生殖機能・免疫機能障害のある 成人の看護 (感染症・アレルギー・膠原病)	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	10
		テスト時間	試験別
学習目標	1. アレルギーを持つ成人とその家族への看護が理解できる 2. 膠原病を持つ成人とその家族への看護が理解できる 3. 感染症を持つ成人とその家族への看護が理解できる		
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態
1回	1. アレルギー疾患患者・膠原病患者・感染症患者の観察とアセスメント	1) 観察とアセスメント (1) アレルギーの原因と程度 (2) 喘息、鼻炎、食物・薬物・ラテックス・職業性・ペット昆虫アレルギー、蕁麻疹、アナフィラキシー (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響 2) 観察とアセスメント (1) 膠原病の原因と程度 (2) 関節痛・関節炎、レイノー現象、皮膚・粘膜症状、発熱、タンパク尿、筋力低下、血管炎に伴う症状 (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響 3) 観察とアセスメント (1) 感染症の原因と程度 (2) 気道の症状、胸痛、腹痛、頭部にみられる症状、感染性心内膜炎、皮疹、筋・骨にみられる症状、発熱、不明熱 (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響	講義
2回	2. アレルギー疾患患者・膠原病患者・感染症患者の症状に対する看護	1) 症状に対する看護 (1) 呼吸器症状 (2) 消化器症状 (3) 皮膚症状 (4) 眼症状 (5) 循環器症状	講義
		2) 症状に対する看護 (1) 発熱 (2) 関節症状 (3) 皮膚・粘膜症状 (4) 筋症状 (5) レイノー現象	
		3) 症状に対する看護 (1) 発熱 (2) 発疹 (3) 下痢	

3回		4) 検査を受ける患者の看護 (1) 抗原特異的 I g E、総 I g E (2) 白血球検査 (3) リンパ球刺激試験 (L S T) (4) スキンテスト・パッチテスト	講義・演習
4回	3. アレルギー疾患患者・膠原病患者・感染症患者の治療と看護	1) 治療を受ける患者の看護 (1) 日常生活の改善 (2) 薬物療法を受ける患者の看護 (3) アレルゲン免疫療法を受ける患者の看護	講義
		2) 治療を受ける患者の看護 (1) 薬物療法を受ける患者の看護 (2) 手術療法を受ける患者の看護	
		3) 治療を受ける患者の看護 (1) 薬物療法を受ける患者の看護	
5回		4) 生活指導 (1) アレルギー疾患をもつ人の援助 (2) 自己免疫疾患をもつ人の援助	講義
		5) 感染防御 (1) 感染予防	
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 膠原病・アレルギー・感染症 成人看護学⑪ (医学書院)		
参考文献			

【排泄機能・生殖機能・免疫機能障害のある成人の看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、看護の理解を深める
--------	------	---------	---------------------

授業科目	成人看護学演習		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 成人期を対象とした看護過程展開ができる 2. 成人期の看護に必要な看護技術が習得できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 成人期にある対象者の理解	1) 成人期の発達段階 2) 胃癌で手術を受ける患者の看護 3) 周手術期の看護・回復期の看護		*アクティブラーニング 講義・演習
2回	2. 胃癌の病態理解	1) 病態把握(関連図)		演習
3回～ 6回	3. 看護過程の展開	1) 事例のアセスメント(術前・術後情報整理・分析) 全体像の把握(関連図)		講義 演習
7・8回		2) 看護問題の明確化(問題リスト)		演習
9・10回		3) 看護計画立案(看護計画)		演習
11回	4. 集中治療と看護	1) 集中治療とは 2) 集中治療を受ける対象者とその家族への援助		演習
12・13回	5. 指導技術	1) 援助の実際(患者指導) 2) 看護計画の評価		演習
14回	6. 救命救急	1) 救命救急の看護 2) 気道確保(挿管)・人工呼吸		演習
15回		3) 気管内吸引 4) 意識レベルの見方の実際 5) 心臓マッサージ・AED		演習
評価方法	演習課題、 演習参加状況			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・臨床外科各論 (医学書院) 看護診断ハンドブック (医学書院) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践看護アセスメント (ヌーヴェルヒロカワ)			
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学② (医学書院) 根拠と事故防止から見た 基礎・臨床看護技術 (医学書院)			

【成人看護学演習】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	演習課題に取り組む
--------	------	---------	-----------

授業科目	成人看護学実習 (成人期の対象理解と生活を支える看護)	対象学年・時期	2年生・後期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	成人期の対象を理解し、生活と健康を育むために必要な看護について学ぶ。		
	実習目標及び内容		
	<p>1) 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する</p> <p>(1) 成人期の身体面の発達及び身体機能の変化を記述(説明)できる。</p> <p>(2) 成人期の心理面の発達及び機能的変化を記述(説明)できる。</p> <p>(3) 成人期の社会的役割を記述(説明)できる。</p> <p>(4) 成人期の生活と、成人を取り巻く環境について記述(説明)できる。</p> <p>2) 成人期の対象が健康を維持・促進し、自立した生活を送るための援助を理解する。</p> <p>(1) 成人期の健康問題の特徴と健康観について記述(説明)できる。</p> <p>(2) 成人期の健康問題の特徴と健康観について文献を用いて考察できる。</p> <p>(3) 成人期にある対象が健康を保持・増進するための対策を記述(説明)できる。</p> <p>(4) 成人期にある対象が健康を保持・増進するための支援方法を記述(説明)できる。</p> <p>(5) 成人期にある対象が健康を保持・増進するための生活の場に応じた支援を記述(説明)できる。</p> <p>3) 多様な場で生活する成人の健康問題への援助を理解する。</p> <p>(1) 健康問題が対象に及ぼす影響を記述(説明)できる。</p> <p>(2) 対象に行われる検査・治療・処置に必要な援助を記述(説明)できる。</p> <p>(3) 対象の健康問題が家族に及ぼす影響を記述(説明)できる。</p> <p>(4) 健康問題を抱える対象の家族に必要な援助を記述(説明)できる。</p> <p>(5) 治療に必要な意思決定支援の場での看護について記述(説明)できる。</p> <p>(6) 対象の健康状態に応じた援助を実施できる。</p> <p>(7) 療養の場における対象を支える多職種連携について記述(説明)できる。</p> <p>4) 保健医療チームの一員として、看護の専門職者に求められる姿勢を身につける。</p> <p>(1) 成人期にある対象の生活と健康を育むために必要な看護について自己の考えを表現できる。</p> <p>(2) 看護の専門職者として信頼を得るための、責任ある行動がとれる。</p> <p>(3) 実習目標の達成に向けて、主体的な学習ができる。</p> <p>(4) 医療チームの一員として適切な人間関係を持つことができる。</p>		
評価方法	評価表による評価		